

2. 稲美町移住・定住促進に関するヒアリング結果の総括

■ 稲美町移住・定住促進に関するヒアリング結果の総括

1. ヒアリング対象者

- 未就園児(乳幼児)を子育て中の母親
- 就学児童を持つ親(父親・母親は問わない)
- 地域コミュニティ(自治会)
- 稲美町内事業者(企業などの経営層)
- 稲美町内の移住後のモデルとなる人
- 稲美町内の農業(後継)者

2. 稲美町の印象

【グループ共通】

● 「子育てがしやすい」

- 「子どもをのびのび育てられる」「子どもが自然と触れ合える場所がある」など
- 具体的に子育てのしやすさを実感している。
 - ・ 子育て支援センターでの催しや同年代のママとの情報交換が、不安解消に役立った。
 - ・ 地産地消を実践している小中学校の学校給食の良さ。
 - ・ ユニークな教育内容（川に入る体験授業や、中学生と赤ちゃんのふれあいの場を持つことなど）。
- 「子育てのしやすさを売りにしている他自治体と比べると負ける」「子育てのしやすさをアピールするための外部に対する情報発信が弱い」などの指摘もあった。

【その他】

- 総じて、町の印象を表す言葉としては、「田舎」「ほどよい田舎」「のどか」「自然が多い」「季節感がある」というのが共通しているが、ニュアンスはグループによって異なる。

- | | |
|----------------------------|-----------------------|
| ● 【移住者】未就学児を子育て中のママ | ・・・「良くも悪くも田舎」 |
| ● 【移住者】PTA や自治体関係者で移住してきた人 | ・・・「ほどよい田舎」 |
| ● 【非移住者】自治会や農業関係者 | ・・・「田園風景都市」「農業とため池の町」 |

- 移住者の友人・知人には、稻美町を知らない人が多い。

3. 稲美町の満足点・不満点等

【満足点】

- 水、野菜、米がおいしい。
- 学校給食がすばらしい。
- 買い物や病院施設の利便性が懸念されたが、日常生活にはあまり支障ない。
- 近年、おしゃれな飲食店なども増えてきている。
- 子育て中は自然がたくさんあるところがよい。

- 子どもが子どもっぽく育っているのをみると良いと思う。
- 山や川がないので、水害が少ない町。晴天率が高く、農業環境には適している。
- 車通勤したい人にとっては、どこにでもすぐに出られるし便利。
- 町内施設には、無料の駐車場スペースが必ずある。
- 行動範囲が広がる。
⇒ 「車で〇分以内」というのが基本の考え方にあるので、女性も町外のパートにも出やすい。
- お客様が遠方から車で来やすいとの声もあった。
- 稲美町は通過点上の町にあたり荷物の集荷などでも立ち寄ってくれる。

【不満点】

- 道路幅が狭い。道路整備が悪く、気が付くと私道に入り込んでいることもあった。
- 自転車通学の児童生徒にとっては危ない道路事情である。(自転車専用道路がない)
- 街灯が少なく、夜は暗くて不安を感じる。
- 水道代が高い。
- 日常の買い物に不便はないが、おしゃれな衣服の購入場所がない。
- ブランド力がない。
- 公共交通機関の利便性に関しては、「鉄道駅がない」「バスの本数が少ない」といった不満が挙げられている。
- 子どもの活動範囲が広くなると、車での送迎が必要。
- 高校生以上になると自転車通学や駅利用が必須になるが、駅が遠くて不便。また、自転車専用道路がなく危ないことから、成長した子どもが稻美町から出ていく要因になる。
- 高齢になり運転できなくなると、公共交通機関が整備されていないため、活動範囲が狭められる。

4. 稲美町への移住のタイミングと選択理由

【稻美町への移住のタイミング】

- 「稻美町出身者との結婚」と「家の建築・購入」の大きく2つ。

【選択理由の特徴】

- 田舎で暮らしたいという元々の嗜好性がある。
- 以前から稻美町を訪れる機会があり、稻美町に好印象を持っていた。
- 実際に稻美町を訪れて、のどかさや田園風景の良さに好印象を持った。
- 土地・家の購入費が比較的安い。
- 広い区画を希望。
- 移住のきっかけとなる家の建築・購入のタイミング・・・子どもの誕生や成長（学校入学等）

5. 稲美町への移住・定住をする際に懸念すること等

【移住・定住にあたって懸念すること】

- 子どもの医療費や助成金関係の有無。
- 昔から住んでいる人たちとの付き合いや交流などや、田舎ならではの地域活動。
- 生活利便性(スーパーや病院などの有無)。
- 交通機関(鉄道駅がないこと)。
- マンションなどの集合住宅がないこと。
- 地区にもよるが、自治会費が高い。
- 「ご近所つきあい」「地元民とのつきあい」

稻美町に嫁いだ方からは、完全によそ者として見られた経験談も語られたが、「実際には、懸念には及ばなかった」との意見が多かった。その理由として、以下の意見があった。

(移住者側の意見)

- 新興住宅地に移住したので、同じような立場の人が多くいた。
- 昔からいる人が、親切してくれた。
- 町の広報で紹介しているイベントなどに参加することで友人ができる。
- 地域それぞれに特性があるので、地域の特性として受け入れてきた。
- 消防団など地域の活動に参加し、飲み会などにも足を運ぶことによって地域の人とも親しくなれたが、活動が多すぎることは否めない。

(受け入れ側の意見)

- 新住民が多い地区では柔軟な姿勢や考え方をもっている。
 - 移住者が多い地域は、受け入れ側も慣れており馴染むことができるが、移住者が少ない地域は、互いが馴染むのに時間がかかる。
 - 稼業(旧住民=農家、新住民=非農家)が違うので、同じような活動を求める事はない。
 - 若いママたちには子どもがいるので、子どもの活動などを通じて自然に馴染んでくる。
-
- ヒアリング対象者からは、「慣れてくる」「自然に馴染む」などの言葉も多く聞かれたが、その「慣れ」や「馴染む」きっかけとなっているのが、“子ども”、あるいは子ども関連の催しや活動にある場合が多い。

6. 関係人口を増やすためのアイデアや施策

【これまで出かけたことのある町外のイベントや催し、施設など】

- 明石、社など近隣自治体の子育て支援センター。
- ネットで検索したおいしいレストランなど。
- 公園。(ひまわりの丘公園、へそ公園など)

【関係人口を増やすためのアイデアなど】

<未就学児を子育て中の母親、就学児童を持つ親(PTA)>

- 子ども対象のイベントの開催。
- 次に稻美町へ行った時に寄ってみよう、と思える場所づくり。

<稻美町内事業者(企業などの経営者)>

- 創業を支援する塾の開催など、創業実現に向けた支援を実施中。

<稻美町内の農業(後継)者>

- 観光農園の充実。
- 農産物(トマト)に関連した企画イベントの開催。(トマト祭り、トマトグルメなど)
- 6次産業の充実。
- 「にじいろふあ～みん」の直売所での消費者とのふれあい。(園芸相談など実施中)

7. 移住者への仕事支援、特に子育て中の女性への仕事支援・働く場の提供等について

- 子どもの入園・入学後に、パートなどの仕事を始めたいと考えている人が多い。
- パート先選びの基準は、「車で10分以内」が目安で、町外までを視野に入れている。
- 子育て世代の女性は、賃金より、時間帯など融通の利きやすさを重視している。
- 農業は、子育て世代の女性の仕事としての可能性は高いという意見も農業就労者からあった。

8. 町の施策や制度との連携について

<稻美町内事業者(企業などの経営者)>

- 町と連携しているプレミアム付商品券。(近隣自治体で実施しているのは稻美町だけ)

<稻美町内の農業(後継)者>

- JAが受け皿となり、町が協力する形が一番スマートである。

(今後の要望)

- 跡継ぎがいるかいないかわからない状態で、個人での施設整備は難しい。
- 賃貸の農業施設(ビニールハウス)を整備してほしい。
- 農地を広げたいと思っても規制がある。新規営農者や、意欲のある若手農家に農地を提供してもらえるような規制緩和を考えてほしい。

9. 情報入手方法について

- 共通して活用されている情報入手方法は、広報紙と回覧板。
- 未就学児を子育て中のママ、就学児童を持つ親(PTA)の入手方法は、ネット検索や友人からの口コミ、学校からの情報(子ども関連のイベントや催しの案内など)。
- インターネット上に、稻美町の情報が少ないという声もあった。

10. 稲美町へのビジネス移住(開業や就農)について

＜稻美町内の移住後のモデルとなる人、稻美町内の農業（後継）者＞

- 「本人のやる気、意欲次第」という声が多かった。
- 新規就農者に対する支援は比較的手厚いせいか、当事者にも甘さがあるという厳しい意見もあった。
- 農業以外で事業を行っている移住後のモデルとなる人の「稻美町での開業理由」を読み解くと、「農業が基盤の町」「広い住宅地」「車社会」といった稻美町の特性がマッチしている。

【起業理由】

- パン屋 ⇒ 農業(小麦の生産)が入口。
 - 飲食店 ⇒ 稲美町での開業が夢。ほどよい田舎で田んぼと家の割合がよい。
 - ネイルサロン ⇒ 国安に家を建て、自宅の一室で開業。
 - 手作り雑貨 ⇒ 義理の父親の農業用倉庫を活用して開業。
 - 養蜂業 ⇒ 土地が広いため巣箱を設置、町内の農家にも設置を依頼。
-
- 集客は口コミがメイン。
 - はじめからターゲットを町外においている事業者もあった。
また、町外から移転開業し、以前のお客さんがそのまま継続して来店している事業者もあった。
⇒ 結果的に、関係人口増加に寄与。
 - 町内コミュニティや内部ネットワークの拡大にも寄与している。
 - 稲美町で本格的な開業・創業を目指す人、あるいは移住をきっかけに開業・創業に目覚める人など、今後、様々なタイプの事業者の出現が考えられる。特に後者のタイプには、自宅で働きたい女性の潜在層が厚いと想定できる。
今後、こうした起業家、あるいは起業家予備軍の特性をとらえた支援策が求められる。